
デジモンプレイヤーズ

椿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デジモンプレイヤーズ

【Nコード】

N1537S

【作者名】

椿

【あらすじ】

小学生なのにデジタルワールドDWに住むシュウ達
シュウ達<ティマー>の仕事は、悪に染まったDWに平和を取り戻すこと

シュウ達は無事、平和を取り戻すことができるのか!?

ブローグ

ブローグ（選ぶ者）

「???」・・・。このままではこの世界も、長くはもたない・・・」

「???」し、しかしイグドラシル様 人間の子供にこのタマゴを、たくして良いんでしょうか・・・。」

広い部屋で2匹の生物が、会話をしている。内容はとても難しいものらしい

イグドラシル「迷っているひまなど無い・・・時間が無いのだ・・・ピッコロモン。」

ピッコロモン「・・・。分かりました では、パタモン・プロットモン・ロップモン！！デジタルゲートを

開けー！」

桃色のピッコロモンと呼ばれた生物が叫ぶと、3匹の可愛らしい生物が円を描いた。

パタモン・プロットモンロップモン「デジタルゲート・オープン！

！！」

3匹がそう叫んだ瞬間、5つのタマゴが先程の円へと、吸い込まれていった。

イグドラシル「頼んだぞ、選ばれしティマー達・・・。」

ブロー

ーグ終わり

プロローグ（後書き）

く 作者からく

読んで下さった方、ありがとうございます！
これから、よろしくお願いします

第1話すべての始まり

第1話 すべての始まり

???「ただいまーみんなー」

僕は勢い良く玄関のドアを、開けた。そのとたん、ソイツが顔面に激突してきた。

???「いででー何するんだよ、シュウー」

シュウ「何するんだよはどっちだよー！だいたい何で顔面に飛んでくるんだよっドルモン！」

僕はドルモンを、顔から引きはがして顔面激突のワケを聞いた。

そのワケによると・・・

1 僕が学校に行っている間は超ヒマなので、友達のキズナ、レット、ユウスケとそのパートナーデジモンを招いた。

2 で、パートナーデジモン達だけで何をして遊ぶか話をしていて殺し屋ごっこをしようという、ことになった、

3 遊んでいたらユウスケのパートナー、テリアモンが投げたボムがたまたま、ドルモンに当たった

4 そして、ボムで吹っ飛んだドルモンの所に運悪くシュウが帰って来た。

ドルモン「そんで、現在に至るってワケだっ どうだ？解ったか？」
シュウ「どんなワケだよって言うか殺し屋ごっこってなんだよー！」
僕はありったけの声でツツコム。

キズナ「いーじゃん いーじゃんっ*どーせシュウ一人＋1匹暮らしなんだしっ*」

・・・ 言い方軽っ！って言うか家の中で爆弾ハボム使わないでよー！！

ドルモン「所でさあシュウ、僕さあ何か忘れてる気がするんだよ。何かなあ」

忘れている物ねえ……。あ——っ！！

キズナ「何！？いきなり！？」

僕達、自己紹介わすれてたー！！
 つてことで急遽、自己紹介タ
 イムにしまーす！

シュウ「読者の皆さんこんにちは！！
僕は 天沢 シュウ 小学
校4年だよよろしく」

ドルモン「僕はシュウのパートナーの、ドルモンよろしく」

キズナ「私は 井上 キズナ シュウのクラスメートなので、パートナーが・・・」

ストラビモン「ストラビモンだ」

「レット、俺は伊月れつとだ。パートナーは、ポケモン」

テリアモン「ハロハロ」テリアモンです。ティマーは狭間ユウスケ　って言うんだ」

うしつ　これで一通りの自己紹介は終わったね　あとは・・・
ガッシャーン！！！！

「同！！？」

な……何！？今のバカデカイ音何！？

テリアモン「みんな、大変！！外でデジモンが暴れてる！！」

デジタルワールドだから、僕達にとっては毎度毎度のことなんだけど・・・最悪なんだよねこれ

キズナ「スキャン!!」

キズナがデジヴァイスへ携帯式で僕達の戦い等をサポートしてくれる道具を暴れているデジモンにかざして、デジモンのデータを読み取る。

データ

クロアグモン、Bアグモン、ウィルス種、爬虫類属

必殺技／スピットファイア

[illegible]

レット「普通のBアグモンよりも、大きい・・・」
ポコモン「何かありそうだね」

第1話すべての始まり（後書き）

く 作者からく

読んでくれた方、ありがとうございます
感想等を書いてくれたらうれしいです

第2話VS Bアグモン

第2話VS Bアグモン

Bアグモン「スピットフレイムー！！」

Bアグモンは口から黒い炎を吐き出して攻撃して来た。

シュウ「危なっ！！ っただけ、命中率高いんだよこの技！！・・・でも負けてらんない行くよ！！ドルモン！」

ドルモン「応っ！！」

僕の掛け声に大きな声で答えるドルモン「ちなみにこつ言う時だけ、たのしい」。

ドルモン「メタルキャノン！！」

ドルモンはサッカーボールほどもある、バカデカイ鉄球を、Bアグモンにぶつける。

キズナ「ストラビモン遠慮しないでいつきに行くわよー！」

ストラビモン「リヒト・ナーゲル！！」

ストラビモンもキズナに答えるように技を見事に命中させた。ハ普

段もこつ言う完璧主義なんだ・・・。

ユウスケ「テリアモン！！」

テリアモン「OK！ プチツイスター！！」

テリアモンは小さな竜巻を作り出して攻撃。

レット「とどめだっ！ポコモン！」

ポコモン「殺生石！ うりゃあああー！」

Bアグモン「グ・・・グアアアアーーーー！！ユウヤ様ーーーー！」

Bアグモンはデータの胞子になって僕達のデジヴァイスに吸い込まれていく デジヴァイスの画面には

ブラックアグモン データ率：5%

と表示されていた

シュウ「・・・？ ヽユウヤ？」

僕はどこかで、聞いたことがあるような・・・と首をかしげながら

思った

だいたいあのBアグモンなんであんなに、大きかったんだろう。

僕は何かが起こりそうな気がしてなかった。

「ダークエリア」

「???」「Bアグモンがやられたか・・・なかなか面白れーじゃん」

「???」「ユウヤ」本当に大丈夫なの???」

ユウヤ「うるさいっ!!オマエは、だまってる!・・・グリグリハ
サイケモンを踏みつける音」

第3話舞え ラプタードラモン（前書き）

いよいよ、ドルモンが進化します
シュー「本編スタートっ!!」

第3話舞え ラプタードラモン

第3話空中戦 舞え、ラプタードラモン!!

シユウ「あゝダメだあ ぜんっぜんヒットしない!」

ドルモン「何が? 野球が?」

ちげーよ オマエ本当何も聞いてねーよな!!

ポコモン「今日のシユウ物凄く荒れてるから、余計なこと言わないほうがいいよ」

ポコモンがカキ氷にパクつきながら、その余計なことを言う

・・・。思えば僕達がDWに来たのも今年の7月1日。丁度夏休み初日だったよなあ

へこの世界では小学生・中学生の夏休みは7月1日〜8月31日と長い〜

ドルモン「ねえ〜野球どこ〜」

だから、野球じゃねえっつてんだろ!! だれだっけユウやって・

・

ユウスケ「何だもう忘れたの?」

シユウ「っつて言うか知ってんの!?」
「驚」

僕は驚きのあまり椅子をガタンと倒してしまった。

ユウスケ「っつて言うか、わざわざデジネットへデジタルワールドのネット」で探すバカがいるか人間だぞっ!」

バカで悪かったな!!

ユウスケ「ホラ 別世界にいった時に会ったじゃんか・・・」
「呆」
別世界・・・?

ユウスケへ駄目だコリヤ・・・

テリアモン「さっきから思ってたんだけどさー。DWにいる人間ってほとんどが、ティマーだから<ティマータウン>に行つて調べれば分かると思うんだよね〜」

一同「分かっているなら、先に言えよ!!!」

テリアモン＆ポコモン「うあーっ」

テリアモンとポコモンは技を出す前に吹き飛ばされてしまった。

シュウ「……どうしよう今、戦えるのは……ドルモンのみ……」

ドルモン「……コイツ……強い」

デビドラモン「シャドウ・ネイル!!」

ドルモン「グワァッ!!」

ドルモンっ!!……無理だよあんな、自分の何倍もある相手に、勝ち目なんてないよ……

ドルモン「ううつ……ここ……までの!!?」

<力が、欲しいか?>

ドルモン「誰っ!!?」

<力が欲しいか?>

ドルモン「ほ……しい……皆を、皆を守るだけの力がっ!!」

ギューイイイン

ドルモンが力いっぱい叫んだとたん、ドルモンを聖なる光が包みこんだ

ドルモン「ドルモン……アーマー進化!!」

ドルモンの姿が、ゆつくりと変わっていく。まだ、幼かった翼は大きく、ふんわりとした尻尾は太くたくましく。姿が変わったドル

モンは低い声で自分の、名を呼んだ。

「鋼の勇氣 ラプタードラモン」

ラプタードラモン サイボーグ型 ワクチン属 アーマー体

必殺技：クラッシュチャージ/アンブッシュクラランチ

シュウ「ラプター……ドラモン」

デビドラモン「グガァッ!!?」

ラプタードラモン「クラッシュ・チャージ!!」

ラプタードラモンはデビドラモンへと、一直線に突っ込んで行く

デビドラモン「グ、グワシャアアアアア！！！！」

1秒後にはデビドラモンを一刀両断にしていた。

勝った・・・勝ったんだやったぁーんがっ

ドルモン「シューウ・・・疲れたぁおぶってえ」

はいはいっ♪

キズナ「やったじゃないっ」

レツト「サンキュウっ」

ユウスケ「あり・・・がとう・・・(照)」

さあ、気をとりなおして調べようか

ポコモン「ユウやって奴をね」

第3話舞え ラプタードラモン（後書き）

椿「僕のデジモンプレイヤーズとデジモンエグザがコラボした、小説があります

ぜひ、読んで下さい！！」

第4話リトル・シュウ!? (前書き)

今回、シュウが退化します!!

4話スタート!

第4話リトル・シュウ！？

第4話リトル・シュウ！？

キズナ「あーっもうっタンマっ！！！」

確かに・・・ちょっと、いやかなり飽きてきた。この、分厚い本を何冊も読むの・・・

ユウスケ「そう？ 俺はかなり、面白いと思うよ」

まあ確かにユウスケは、本好きだからねえ・・・

レツト「付け足すとか無類の本好き>だな」

なんで付け足す必要があんだよ！！

ポコモン「ねえーこのコーラ誰のー？」

ポコモンの指を指す方向にはペットボトルに入ったコーラ（一応らしき物と付けておこう）があつた

シュウ「また、ユウスケが作った妙な薬だつたりして、例えば体が縮んだり・・・ごくごく（コーラらしき物を飲む音）」

キズナ「名〇偵コ〇ンじゃ無いんだから・・・」

ユウスケ「ああっその薬はっ！！！」

一同「オマエが作ったんかいっ！！！」

ユウスケ「体が縮む薬！！！」

一同「名〇偵コ〇ンじゃん！！！」

とたんにシュウが苦しみだす

シュウ「うつつがが・・・うがががー！！！」

煙がシュウの体から出てきてるため、視界が悪い。

視界が晴れた時には3歳位の少年になっていた。

（数分後）

キズナ「どないなっとなねん！！！！！」

ユウスケ&テリアモン（何故に関西弁？）

キズナ「これがシュウ！？ 小っこなつてもーとるやん！！！」

キズナ「ユウスケ、アンタの仕業か！！！」

ユウスケ「自覚ねーけど多分俺」

ゴチャゴチャうるさいなー

一同「喋った！ しかもいつもどつりに！！」

実は中身は変わって無いらしいんだ

テリアモン「名〇偵コ〇ンじゃん・・・」

しっかしこう小さくなるとゴーグルは落ちてくるは何かと不便だな・

・

ポケモン「まず、洋服をどーにかしないと・・・」

キズナ「けど・・・これ元に戻るのかしらね」

ユウスケ「1時間ぐらいで治るから、洋服はどーにかしなくても良いと思う」

ふう・・・良かった・・・

レット「こつちからも良いニュースだ ユウヤとか言う奴のデータが見つかった」

一同「マジで！？」

レット「ああ。ユウヤはつい最近タイマー登録を、したらしい。7月3日・・・調度先週だ」

（今は7月10日と言う設定です）

でも、元に戻る薬とかって無いのかな・・・

ユウスケ「有るよ」

ドルモン「有るんなら言えよ！先に！」

シュウ「・・・これで本当にもどるんだろうな」

ゴクゴク（元に戻る薬を飲む音）

キューーーーーン

シュウ「戻った・・・元に戻ったあ」

ドルモン「ひゃっほーい」

ちなみにこの後ユウスケはシュウにゲンコツをくらいましたため
たしめでたし

第4話リトル・シュウ！？（後書き）

椿「ユウスケ、リュウ君に謝ったのに返事きませんね」

ストラビモン「コラボ編とかで忙しいんだ　ここは一つ待とう」

ユウスケ「・・・だから、人付き合いとか集団行動は嫌いなんだ・

」

椿「とにかく、次回もよろしくおねがいします!!」

「緊急告知!」

椿「デジプレ（デジモンプレイヤーズの略）で人気投票をやります
ちなみに5位、1位が登場します（司会とゲストもね）」

「切りは1週間後です（そのため更新が遅れますごめんなさい）」

番外編デジモンエグザの世界から帰って来て・・・（前書き）

シュー達がデジモンエグザの世界から帰って来た、直後のお話です

番外編デジモンエグザの世界から帰って来て・・・

番外編デジモンエグザの世界から帰って来て・・・

レツト「遅いな～アイツら」

ポコモン「はじまりの町に行っただけなんだけどな」

レツト達は、シユウ達の帰りが遅いので心配している

ストラビモン「どうせアイツらのことだ。どうかで道草でもくっ
ているんだろう」

???「うあああああああ」

キズナ「ねえ、何か聞こえなかった？」

???「うあああああ」

謎の声はだんだんと近づいて来る。

ストラビモン「このシチュエーション・・・だいたい想像がつくぞ」
ポコモン「につげろ」

キズナ達2人+2匹は慌てて奥の部屋に避難する。

ドゴオン

キズナ「はじまりの町に行っただけのシユウ達が何で空からふっ
てくるの」

シユウ「その理由を説明したいんだけど・・・まず僕から降りてく
れない?ユウスケ・ドルモン・テリアモン!!」

僕は上に乗っかっている1人+2匹に向かって言った

それから、別世界のDWに行ったことや、リュウと言う人物にあっ
たこと、ドリモゲモンがユウヤと言う奴に操られていたことなど全
て話した

ストラビモン「別世界のDWか・・・興味深いな・・・」

キズナ「いいなー私も行って見たい・・・」

などと言っていた。・・・けどリュウさんには救われたなあ色々

ドルモン「リュウ達、また会えるって言ってたよ!!」

ユウスケ「・・・」(リュウのとも俺達みたいはまだ、仲間・・・

じゃなかった変な奴ら（デジモンJ.E.Tのメンバー）は居るのかな？ だったら行って見たい」

レット（シュウ・何か前よりも生き生きしている気がする・・・）
ポコモン「ポコも行くー！」

その夜

シュウの部屋

さてと、寝るか・・・そういえば僕達いつまでDWに居られるんだろっ・・・もし、元の世界に帰ったらまた僕は一人ぼっち・・・いや、そんなこと考えちゃだめだっ僕はもう一人じゃない。

（仲間が居る・・・）

ユウスケの部屋

また、夜かぁ・・・俺、夜とか怪談とかそーゆのにはめっぽう弱いんだよな・・・リュウか・・・居なくなると寂しくなるな・・・ん？ 雨？ いや、雨はふってない。じゃあ、なんだ？

テリアモン「？ユウスケ・・・泣いてる？」

え？・・・泣いてる？・・・

ユウスケ「う・・・うえ・・・うあああぁんっ！！」

シュウ「！？つゆ・・・ユウスケ大丈夫！？」

キズナ「どつかぶつけた？」

ユウスケ「リュウうあああぁん」

ポコモン「シュウが泣かせたー！」

僕じゃないってば！

レット「シュウ、弱い者いじめはダメだぞ」

今の聞いてた！？

その夜シュウとユウスケは一緒に寝ましたとさ めでたしめでたし
ユウスケ「余計なことを書くなっ！（本当だけどっ！）」

番外編デジモンエグザの世界から帰って来て・・・（後書き）

トリミーさんありがとうございます!!
人気投票はひきつづきやっております

第5話キズナを守れ！その名はガルルモン！！（前書き）

えゝ読者の皆様にお知らせです。人気投票はこの小説が広まってからにします。本当にごめんなさい

第5話キズナを守れ！その名はガルルモン！！

第5話キズナを守れ！その名はガルルモン！！

一同「あゝっヒマゝ！！」

・・・面白いほどハモった・・・あれから色々調べて見たんだけど、ユウヤって奴の情報あまりにも少なすぎっ！！

ストラビモン「しゃーない、バトレん（バトル練習の略）でもすつかあゝ」

そう言えばストラビモン、最近バトレんの回数が増えてない？

キズナ「あの子はバトル・喧嘩好きだからねゝ」

何かストラビモンの、将来を想像するのが怖いような・・・

ストラビモン「おーいっドルモンちよい、バトレんに付き合ってくんねーか？」

ドルモン「いいよゝゝ」

くバトレんゝ

ドルモン「メタルキャノンっ！！」

ストラビモン「リヒト・バイン！」

す・・・凄いドルモンが圧倒的におされてる・・・

ドルモン「くっ！こうなったら進化だ！！」

・・・出来んのかな・・・

EVOLUTION

（エボリューション）

ドルモン「ドルモン アーマー進化ゝ！！」

ラプタードラモン「鋼の勇氣 ラプタードラモン」

出来ちゃったよ・・・

ストラビモン「少しばかり、厄介になりそ・・・」

ストラビモンが何かを言いかけた時！！

ズドオオオオン！！

一同「！？」

ストラビモン「何かくるぞ！！」

???「グオオオオオッ!!」

キズナ「スキャンッ」

キズナがデジヴァイスを使ってデジモンのデータを読み取る。

シードラモン データ種 水棲型

必殺技：アイスアロー ウォータープレス

レット「おかしい シードラモンは普通ネットの海等に生息するのに何故、陸地にいるんだ？」

レットが不思議そうにつぶやく

ユウスケ「それってたぶん・・・違法改造って奴じゃないのか??」

一同「はいほーかいぞう??」

ユウスケ「お前らちゃんと変換しろよ・・・（呆）」

えーっとユウスケの話がムダに長かったのでまとめると・・・

1 違法改造デジモンは、タイマーによって許可なく改造されたデジモンである。

キズナ「そもそも改造に許可とかあるの??」

ユウスケ「有るよ、改造のしかたによってはパラメーターが上がったり、データがバグったり色々」と

2 そのようなデジモンは成長期なのに完全体の力が有ったりとある意味便利。

3 だが暴走しやすいと言うデメリットがある。

シードラモン「グオオオオオオー!!」

キズナ「喋ってる場合じゃないよね カードスラッシュ！スピードチャージャー!!」

キズナが手持ちのカードをデジヴァイスにスラッシュして、ストラビモンのパラメーターを上げる。

ストラビモン「リヒト・ナーゲル!!」

ストラビモンは素早く、シードラモンの腹部に技を命中させる。

テリアモン「プレイングファイ・・・」

シードラモン「グゴオオオオオオ!!」

テリアモン「うああああ」

シードラモンの尻尾の攻撃で、テリアモンが吹っ飛ばされる。そして、その後ろにいたラプタードラモンも巻きぞいを食らう。

シュウ「大丈夫!?ラプタードラモン!!」

ラプタードラモン「うぐっ・・・さっきのバトレんのダメージがまだ、回復してなかったか・・・」

ポコモン「殺生石っ!!」

シードラモン「グガアッ!!」

ポコモンの殺生石も簡単に跳ね返され、残るはストラビモンのみとなった

シードラモン「ウォーターブレスー!!」

シードラモンのウォーターブレスがストラビモンに直撃する。

キズナ「ストラビモンっ!!」

ストラビモン（くっキズ・・・ナ悪・いもう・・・ダメだ・・・）

<力がほしいか?>

ストラビモン（っ!?!）

<力が、ほしいか?>

ストラビモン「ほしっキズナ達を守る力がっ!!!!」

ストラビモンが大きく叫んだ時、ドルモン同様聖なる光が満ち溢れたストラビモン「ストラビモン進化っ!!」

とたんにストラビモンの姿が大きく変わっていった 2足歩行だった足は4足歩行に、子供の様な小さかった体は2メートル位に、姿が変わったストラビモンは自分の新しい名を呼んだ。

???「ガルルモン」

ガルルモン データ種 獣型

必殺技：フォックスファイヤー フリーズファンク

キズナ「ガルル・・・モン・・・」

シードラモン「アイスアロー……!!」

シードラモンが槍の様な氷を口から、飛ばす。

ガルルモン「フォックスファイヤー……!!」

ガルルモンは蒼い炎でアイスアロー溶かすついでに、シードラモンにもダメージを与える。

シードラモン「グガアッ!?!」

ガルルモン「トドメだ フリースフアング……!!」

ガルルモンは冷たい牙でシードラモンに、おもいつきり噛み付く。

シードラモン「ギャシャアアアア……!!」

シードラモンはデータの胞子になってシュウ達のデジヴァイスに吸い込まれていく。

ストラビモン「……? 何があったんだ?」

覚えてないんかいっ!!

キズナ「ラビ(ストラビモン)……やったね」

ストラビモン「ぬわっ オイ抱きつくなっ オイ聞いてんのかキズナ……!!」

ユウスケ「本当は嬉しいクセに」(ボソリ……)

ストラビモン「んだとコラア(怒)」

この後ストラビモンに色々と聞いてみたんだけど、結局進化のことは覚えてなかったんだって。

第5話キズナを守れ！その名はガルルモン！！（後書き）

キャラ紹介

天沢 シュウ （アマサワ シュウ）小4 9歳

ロスエボのシュウです小4つてのは、オリジナル設定です

幼いころ、両親に捨てられているので高校生以上の人が苦手 また、クラスメートからもいじめを受けている。 パートナーはドルモン。

好きな歌は アポロ、風等 デジモンテイマーズ

長所：少しばかりだが、戦闘力がある 歌、家事等が上手い

短所：あまり、人を信じていない所

第6話守りたい者テリアモン進化!!前編(前書き)

更新遅れてすいません。学業等で忙しくって

第6話スタート!!

第6話守りたい者テリアモン進化！！前編

第6話守りたい者テリアモン進化！！前編

ユウスケ＆テリアモン「オマエとは、絶交だ〜！」

あちゃーまた始まったよ〜

ドルモン「朝飯で喧嘩ってガキかよ〜（呆）」

ユウスケ「俺より体が小せえオマエに、言われたかねえんだよっ！」

ドルモン「ハア？体のサイズは関係ねんだよ バカか？テメエはっ

！！」

まあまあ、喧嘩しないで掃除してよ〜

ストラビモン「シユウの言う通りだ 口を動かしてないで手を動か
せ」

ユウスケ・テリアモン・ドルモン「ちえ〜」

〜掃除終了後〜

あ〜あやつと終わった（たぶん、ストラビモンが注意してなかった
ら永遠に終わらなかっただろう）

ポコモン「今回も余計な事は言わないほうがいいかもね」

ばつちり余計な事言ってると思うよ・・・そういえば、ポコモンっ
て成長期に進化・・・

ポコモン「忘れた」

即答。まあ予想はしていたけど、これだけピシャリと言われると何
かへこむ。

キズナ「シユウ〜そろそろRWリアルワールドに戻らないと私たちは、午後の授業
もあるから」

おおっとそうだったこの間デジタルゲートへの、アクセスのしかた
が分かったから

レット「ユウスケ、留守番頼むぞ〜」

ユウスケ「OK〜」

〜留守番中〜

テリアモン「ヒマ~~~~」

ストラビモン「20秒だな」

ポコモン「ポコもくヒマ数えゲームやる」

ポコモン達の言うヒマ数えゲームとはくヒマ〜と、一息で何秒言えるかを競うゲームである。勿論、考えたのはドルモンである。（ちなみにく殺し屋ごっこを考えたのも、ドルモンである）

ドルモン「次は僕だねいつくよ　ヒマ~~~~」

ストラビモン「29.5秒・・・!!」

ユウスケ「・・・」

ポコモン「ユウスケもやる？」

と、ポコモンがさそうが

ユウスケ「いい、やんない」

と、意地を張り　背中を向けたまま動かない

テリアモン「今のユウスケには、何言っても無駄だよ」

テリアモンが嫌みたつぷりに言う

ストラビモン「どうでも良い話と思うがさっきから何の音が、知らんが変な音が聞こえるんだよな・・・」

一同「それ、どうでも良い話じゃない無いじゃ〜んっ!!」
ゴオオオオ

ユウスケ「喋っているヒマがあれば、早い所相手をしろってか」

ストラビモン「上等・・・!!」

ポコモン「あ、クワガーモンだあ」

クワガーモン　ウィルス　昆虫型　成熟期

必殺技：シザーアームズ

ストラビモン「今は、キズナ達がいらない。進化出来ない分、厄介になるな・・・」

ポコモン「ポコに任せてく殺生石」

ポコモンが石に化けて毒ガスを吹き出す

ドルモン「メタルキャノン!!」

ドルモンが吐き出した鉄球が、クワガーモンにクリーンヒット（急所に当たる）する。が・・・

クワガーモン「シザーアームズ!!」

クワガーモンもすかさず、反撃にうつる。クワガーモンが技を仕掛けた方向には・・・ユウスケが

テリアモン「ユウスケっ危ない!!!!」

～続く～

第6話守りたい者テリアモン進化！！前編（後書き）

（キャラ紹介）

ドルモン 世代：成長期 タイプ：データ 種族：獣型

必殺技：メタルキャノン・ダッシュメタル テイマー：
シユウ

シユウのパートナーであり、彼の良き理解者。 勇気のデジメンタルでラプタードラモンへアーマー進化。 紫の尻尾はフサフサだが、あまり触らせてもらえない

・・・がシユウは特別らしく、クッション等になっている。これは、ドルモン自らがやっている愛情表現・・・らしい。

長所：諦めない心を持っている事。

短所：仲間で有っても、自分の過去を話したがない所

第7話守りたい者テリアモン進化!!後編(前書き)

更新が遅れてすみません。しかも、今回いつもより長いです。

第7話守りたい者テリアモン進化！！後編

第7話守りたい者テリアモン進化！！後編

テリアモン「ユウスケ危ない！！」

テリアモンは慌ててユウスケを持って飛ぶつもりが・・・

ユウスケ「いつてえゝコイツ、突き飛ばしやがった」

突き飛ばされたと、勘違いしたらしい。

ドルモン（勘違いのレベルじゃあないと思う・・・）

ストラビモン「今は仲間割れしている場合じゃない！！ユウスケ、

カードだ！！」

ユウスケ「分かったよ・・・テリアモン」

テリアモン「スタンバイ（準備）OK！いつでもどーぞ？」

ユウスケの言葉にテリアモンが答える

クワガーモン「シザーアームズ！！」

ユウスケ「カードスラッシュ！！グルルモン カオスファイヤー！

！！

テリアモン「カオスファイヤー！！」

テリアモンは口から蒼い炎を吐き出してクワガーモンのくシザーア

ームズ>を阻止する。

ドルモン「吹っ飛べ！！メタ・・・」

クワガーモンは目標を^{ターゲット}変え、ドルモンを巨大なはさみで締め付ける

ドルモン「グア・・・アアッ」

ストラビモン（くっ・・・あっちにはドルモンがいる・・・下手に攻撃

をすれば・・・）

ポコモン「・・・！！良いこと考えたっ！」

ポコモンが良いことと言うとたいていが悪い事なんだが・・・

ストラビモン「作戦か！？」

ポコモン「ポコのとっておきの技だよ！！」

ユウスケ「と・・・とっておき??」

言うが早いか、ポコモンはクワガーモンの元へ走って行く
ポコモン「食らえ！楓の舞！！」

ポコモンは緑色の楓で、クワガーモンの目を晦ましていく。
クワガーモン「シザーアームズ！！」

ポコモン「うあ〜っ！！」

ユウスケ「ポコモン・・・なんで・・・」

ユウスケはぐったりとした、ポコモンを抱えて泣いていた。

テリアモン（！！・・・そうだ、僕は約束したんだ）

ユウスケ「ポコモンが・・・やっぱり、シュウ達がいないとダメだ・

・・・」

テリアモン（もう ユウスケを泣かせたりしないって！！）

ギューーンッ！！

テリアモンが心の中で叫んだと同時に、聖なる光がデジヴァイスから溢れる。

テリアモン「テリアモン進化！！」

テリアモンの姿が変わっていく足には爪が生え、手はガトリングに・
・・・。テリアモンは静かに自分の名を名乗る。

???「ガルゴモン」

ガルゴモン 獣型 ワクチン種 成熟期

必殺技：ガトリングショット ダムダムアッパー

ガルゴモン「いくら心の広い僕だって、ユウスケを泣かせたことだけは許さないんだから！！」

ガルゴモンは静かにガトリングを構える。

クワガーモン「シザーアームズ！！」

クワガーモンはもの凄い勢いで、ガルゴモンに襲い掛かろうとする。

ガルゴモン「ガトリングショットー！！」

ガルゴモンはクワガーモンに凄まじいガトリング攻撃をおみまいる。

ユウスケ「カードスラッシュ！チャックモン<スノーボンバー>！
！」

ガルゴモン「いっくよ<スノーボンバー>！！！」

ガルゴモンのガトリングから大量の雪球が発射される。チャックモンの必殺技、<スノーボンバー>だ。

クワガーモン「ゴオオオー！」

クワガーモンも、これは堪らないとばかりに森へ逃げ帰って行った。そして、ガルゴモンは力を使い果たしてテリアモンへ退化する。

ユウスケ「テリアモン・・・そのさっきはゴメン・・・」

テリアモン「ううんユウスケの卵焼き盗っちゃったのは、僕だもん僕こそゴメン」

約1時間後

シユウ「ただいまってアレ？」

テリアモン「見て見てユウスケ僕も絵描いて見たの」

ユウスケ「何？ソレ??」

テリアモン「ユウスケだよユウスケこそ何描いてんの？」

ユウスケ「うわっ勝手に見るな！」

キズナ「いつの間に仲直りしたの」

ユウスケ・テリアモン「べつに」

何でそこでハモるんだ？

ドルモン「コレテリアモンじゃん！ユウスケは相変わらず絵が上手いな」

え？どれどれ

ユウスケ「・・・まいっか」

レット「何がだ？」

ユウスケ「べつに」

ダークエリア

ユウヤ「テリアモンまで進化したか・・・」
サイケモン「そろそろ出番？」
ユウヤ「いや、ポコモンの様子を見てからだ」
サイケモン「・・・うん分かった。」

第7話守りたい者テリアモン進化！！後編（後書き）

（キャラ紹介）

井上 キズナ（イノウエ キズナ）9歳 小4

シュウの幼馴染であり、クラスメイト。シュウのイジメの事は、見て見ぬフリをしていた

運動神経はメンバー1・・・なのだがいつもは、デジネットでDWの状況をしらべたり・・・パートナーはストラビモン

シュウと二人暮らしで、基本家事はシュウ任せ。

長所：運動神経が良い所

短所：誰かに、任せるのがムダに多い所

第8話七変化キュウビモン！！前編（前書き）

ついにこの小説、アクセス数1000超えました！！
これからもよろしくお願いします！！

第8話七変化キュウビモン！！前編

第8話七変化キュウビモン！！前編

「ホーリーサンクチュアリ」

イグドラシル「サツキ、ピヨモン。オマエ達に頼みたい事がある」
サツキ「何ですか？」

サツキと呼ばれた長い藍色の髪の子供はゆっくりと、目を開ける。
1年生ぐらいだろうか、背がとても小さい。

イグドラシル「影が暗躍しているのは分かってるな・・・」
ピヨモン「ぶっ壊せってこと？」

イグドラシルの言葉にサツキの肩にのっているピヨモンが答えた。
イグドラシル「そういうことだ」

ピヨモン「消えちゃったね」

サツキ「早い所いくぞ」ピヨモン

「デジホーム」

シュウ「だーもうこれじゃあ会議に成らないじゃんっ！」

僕は思わず大声をあげた。今日は月に一度の会議の日・・・なんだけど。

ユウスケ「ZZZ」

ユウスケは夜更かししていたため、昼寝中。 （ちなみに、DVD
を見ていたとか・・・）

テリアモン「♪♪♪」

テリアモンは鼻歌を歌いながら、絵描き中。

キズナにいたっては全くやる気が感じられず、プリントでペラペラ
漫画を作っている。

シュウ「かげんに・・・いい加減にしろー！！」

僕はとうとう、ぶち切れた。

レット&ストラビモン「何だよ俺はちゃんとノート取ってるぞ」
ハモるなー！！

ポコモン「怒るのは体に悪いよ」

オマエらが怒らせたんだろーが！

ドルモン「はい会議を始めます 意見がある奴はどんどん意見言いやがれ！」

何で途中から口が悪くなったんの！？

キズナ「はい、シュウがうるさい。」

シュウ「さっきいい加減にしろって言ったよね？ね？」

ストラビモン「はいはい、どーどー、落ち着いて。顔が怖いよ」読者がドン引きするよ」

シュウ「何が月一会議だよーだいたい、こんな事考えた奴誰だよ・・・」

シュウは愚痴りながら、役割ポスター（シュウ達それぞれの役割とそれを作った者が書いてあるポスターの事）を見る。

シュウ「えーとく井上 キズナ>ってオマエ考えておきながらやんねーのかよ！！」

キズナ「うん、私く考えるより行動>派だから」

誰もそんなこと聞いてねーよ！

ユウスケ「むにゃあ？カイギ？・・・そうだった！今日会議の日だあー！！」

今更っ！？だいたい会議中に居眠りって・・・

ユウスケ「ああ・・・昨日はバ○オハ○ード見ていたから・・・」

そして、それは小1が見るものじゃあ無いと思うよ・・・

テリアモン「シュウー今日は晴天だね」

ああ、この一週間はずっと晴れだつてよ。

テリアモン「でも、僕達の日常はそうはいかない見たい・・・

え？何で？

テリアモン「・・・コドクグモンの大群が攻めて来るよ・・・」

一同「それを早く言えー！！」

テリアモン「ごみんに（笑）」
一同「「笑い事じゃない!!」」

第8話七変化キュウビモン！！前編（後書き）

くキャラ紹介く

ストラビモン 成長期 バリアブル 魔人型 タイマー：キズナ
キズナのパートナーでメンバー1の実力者・・・なのだが、朝起き
てから10分ほどはボーっとしており何をやっても怒られないが、
戦闘も出来ないと言う弱点をもつ

必殺技：リヒト・ナーゲル リヒトバイン

長所：メンバー1の実力者！

短所：素直じゃ無い所

第9話七変化キユウビモンー！後編（前書き）

ついに9話目・・・早いですね〜

第9話七変化キュウビモン!!後編

第9話七変化キュウビモン!!後編

コドクグモンか・・・ってことはドクグモンも居るわけ!?

テリアモン「・・・居た・・・」

ドルモン「じゃあいつちよ暴れると」

ストラビモン「しますか・・・(ニヤリ)」

エボリューション
EVOLUTION

ドルモン「ドルモンアーマー進化!!」

ストラビモン「ストラビモン進化!!」

テリアモン「テリアモン進化!!」

???「鋼の勇氣ラプタードラモン!!」

???「ガルルモン!!」

???「ガルゴモン!!」

デジモン達がいつせいに進化する。

ラプタードラモン「行くぞ皆! アンブッシュクランチ!!」

ガルルモン「言われなくても! フォックスファイヤーッ!!」

ガルゴモン「やるっつーのガトリングショット!!」

ラプタードラモン達は凄い勢いでコドクグモンを倒して行く。木な
んかも倒しちゃってるけど、まあいいか(↑おい!)で、ポコモン
はと言うと・・・

ポコモン「レットレットぽこを成長期に進化させて!!」

レット「オマエ進化できるのか?」

ポコモン「勿論! ポコモン進化!!」

???「レナモン!!」

レナモン 成長期 データ 獣型

必殺技：弧葉刹
こはうせつ

ドルモン「おゝいコドクゲモンの方は終わったぞ」

早って言うかいつの間に退化してたの!?

ドルモン「いやいや、こんだだけ暴れると腹減っちゃてさ」

???「ポイズンステインガー」

ドルモン「!？」

レナモン「ドルモン危ない!!」

ドルモンはレナモンがかばってくれたから助かったけど・・・

レナモン「うぐっ」

レナモンは少しかすっちゃったみたい

キズナ「あれってドクゲモン!？」

ドクゲモン 成熟期 ウィルス 昆虫型

必殺技：ポイズンステインガー

レット「レナモン!!」

ユウスケ「・・・レナモンバグって来てる・・・」

一同「ええー!!!!」

レナモン「・・・僕が戦うから大丈夫・・・皆は休んでいて」

ドクゲモン「ポイズンステインガー!!」

レナモン「こようか弧妖火!!」

ズバッ!!

レナモン「くっ」

レナモンが押されている

レット「カードスラッシュ!バグ消し!」

レナモン「!?レット」

レット「一人で抱え込むな」

レナモン「・・・分かった」

カッ!!!

その時一本の光がレナモンに射した。

レナモン「レナモン進化・・・」

???「キュウビモン!!」

キュウビモン 成熟期 ワクチン 獣型 (銀色Ver)

必殺技：鬼火玉 おにびだま 弧炎龍 こえんりゅう

レナモンが進化・・・

キズナ「綺麗・・・」

ユウスケ「あの状況で・・・」

キュウビモン「毒なんか焼き消してやる！弧炎龍！！」

ドクグモン「グ、グワア！！」

相当なダメージを受けたらしいフラフラしている。

キュウビモン「トドメ！鬼火だ・・・」

???「カラフルスパーク！！」

ドクグモン「グワア！？ガアアアア！！」

何者かがドクグモンを倒した・・・？

キュウビモン「誰だよ」

???「僕はサイケモン。タイマーのユウヤから伝言を預かってきた・・・」

サイケモン 成長期 ワクチン 爬虫類型

必殺技：カラフルスパーク スパークフック

一同「ユウヤ！？」

サイケモン「俺を倒したければ明日の夜7時に、＜輝きの灯台＞に
来いだってさ・・・とくに天沢 シュウ君は・・・じゃあ」

そう言々とサイケモンは走って行ってしまった

シュウ（僕が？何で？）

第9話七変化キュウビモン！！後編（後書き）

くキャラ紹介く

狭間 ユウスケ 小6 7歳 パートナー：テリアモン

無類の大好き 趣味がPC、絵描き、本読み

（よく、フェアリモンなんかも描いている）

長所：絵が上手い

短所：無愛想、口が悪かったり・・・

第10話誘惑の森シュウ大ピンチ！？（前書き）

もう、10話！？ 早々と驚いている作者です・
バスターズも頑張らなきゃなあ

第10話誘惑の森シュウ大ピンチ！？

シュウ「僕・・・呼ばれた・・・ユウヤって奴に何で??」

これで5回くらいこんな事を呟いている。

今は午後4時 7時まで3時間位ある でドルモン達は何をしているかという・・・

ドルモン「うりゃー二丁拳銃!」

緊張感ゼロ・・・殺し屋ごっこだって・・・

テリアモン「バグボム!」

こらゝボム(爆弾) 投げるなゝ

ユウスケ「殺し屋ごっこ止めないと晩飯ぬきにするってシュウが言ってた」

ドルモン&テリアモン&ポコモン「ごめんなさゝい!!」

ユウスケこそ嘘ついていると晩飯ぬきにするよ・・・

キズナ「それは置いて、輝きの灯台まではどれ位距離があるの?」

レット「約10KM位・・・だな」

ストラビモン「大人が休まず歩いて約2時間・・・」

今から行った方が良さそうだね・・・

テリアモン「そうと決まったら早速したくだ」

一同「おおゝ!!」

ー約5分後ー

シュウ「よし輝きの灯台に出発だ!!」

レナモン「なら、まずはく誘惑の森>を越えなきゃね」↑進化した

ドルモン「それじゃあ誘惑の森目指して出発!!」

ー誘惑の森ー

ユウスケ「・・・霧が濃くて視界が悪いな・・・」

たしかに・・・下手すると迷子になっちゃいそう・・・

レット「地図によると真っ直ぐ行けば越えられるぞ」

キズナ「うしつ頑張ろう！ってあれ？シュウ、どうしたの？？」

シュウ「・・・あれ・・・前に居るの・・・僕の父さんと母さんだ・・・」

一同「ええゝ！？」「」

ストラビモン「けどオマエの両親って、オマエを捨てたんじゃ・・・」

シュウ「今、話せば分かるかもしれない！！」

そう行つた1秒後にはシュウはもう、走り出していた

シュウ「父さんっ 母さんっ！」

シュウの母（？）「シュウ！？」

テリアモン「ねえゝ早くしないと7時になっちゃうよゝ」

シュウ「何で父さんと母さんがここに居るの？ 何であの時僕を捨てたりしたのっ」

ドルモン「シュウー偽者かもしれないんだぞ！」

シュウの父（？）「シュウ、ごめんな・・・あの時は深い事情があつてオマエを手放さなきゃいけなかったんだ・・・」

シュウ「そうだったんだ・・・」

シュウの母（？）「でも、こんどからは3人で一緒に暮らせるわ」

シュウ「本当！？やったー！」

シュウは飛び上がって喜んでいるがこれは言うまでもなく幻だ

ストラビモン「ヤバイぞ・・・」

レナモン「何がだ？」

ストラビモン「あいつの・・・シュウの近くに地雷が埋まっている・・・！！」

一同「じ・・・地雷！？」「」

第10話誘惑の森シュウ大ピンチ！？（後書き）

くキャラ紹介く

テリアモン 成長期 ワクチン 獣型 タイマー：ユウスケ

無問題が口癖のユウスケのパートナー

思った事を口に出してしまう生意気な一面もあり

普段はユウスケの頭に乗っかっている

次回！ シュウは幻に勝つ事が出来るのか！？

第11話ユウヤとサイケモン！（前書き）

短くなつてしまいましたすいません あとしばらくプレイヤーズに
は手を付けない可能性があります本当にゴメンナサイ

第11話 ユウヤとサイケモン!

ドルモン「シュウー! 離れろー!」

シュウ「え?」

ドルモン「ダツシュ・メタル!」

ドオオツカアーン!!

ユウスケ「シュウ!」

キズナ「・・・死んじゃった・・・嫌・・・イヤアア!」

キズナが叫んだその時

???「失礼しちゃうなあ〜誰が死んだって?」

一同「!?!?!」

レット「シュウが生きてる!?!じゃあアレは?」

ブウン

奇妙な電子音が流れて、もう一人の僕(?)は消えた

シュウ「それはね、レナモンに作ってもらった幻だよ」

ストラビモン「じゃあ俺達は幻のシュウと行動していたわけか?」

レナモン「そうだよ、シュウが前もってあの罫を調べて置いたんだ。

そして出掛ける準備をしている時に

それを知らせてくれたんだ」

レナモンが説明する。ホントに死ぬなんて失礼だな・・・

テリアモン「で、その罫を仕掛けた正体は誰なんだろうね」

キズナ「勿論、あのユウヤって奴でしょ!」

僕らはまだ気がつかなかった・・・ユウヤ以外にも敵がいる事が・・・

〜輝きの灯台〜

シュウ「ここが輝きの灯台かあ」

そこは輝きの灯台と札に書いていくせに灯台が付いてもいなかった
ドルモン「名前と景色がぜんぜん噛み合っていないな・・・」

???「そりゃあそうじゃん、俺が消したんだもん!」

一同「「!?!」」

「???」「始めましてだな俺は 菊田^{きくた} 裕也^{ゆうや}って言うか自己紹介するまでもねーか」

テリアモン「あいつがユウヤ?」

ドルモン「???あれくユウヤ>ってシウのクラスの名簿に乗ってなかったっけ?」

サイケモン「シウとキズナとはクラスメートだよ?気づかなかった?」

ユウヤ「黙ってくんない?マイナーデジモン」

サイケモン「うう・・・もっとコメント無かったの・・・?(泣)」

一同「「何なんだコイツら・・・」」

完全にどっからどう見てもSとMじゃん・・・

大丈夫なの!?!こんな奴らで!?!

第11話ユウヤとサイケモン！（後書き）

〽キャラ紹介〽

伊月 れつと（いづき れつと） 小4 9歳 テイマー
元々は作者の友達が考えたキャラ ポコモンがパートナー
ボケとツツコミどっちもやれる

長所：柔道、空手は一応得意 仲間思い

短所：人の話を聞かないと言うか聞く気がない

第12話激突、ワーガルルモン！（前書き）

デジブレ再開しました！　今まで以上に進化して（？）戻ってきました！

そして、暑いですね！これからもっと暑くなるんですよ！くれぐれも体は壊さないよう気を付けて下さいよ

第12話激突、ワーガルルモン！

「……ど、どうツツコンで良いか分からない……。僕の目の前に
シャドウは影のテイマーとそのパートナーデジモンが……。けど！

ユウヤ「第一オマエ引ッ込んでろッて言ッたろ」（サイケモンを踏みつける）

サイケモン「いてて……。だッて相手成熟期に進化出来るデジモンが4体だよ！？」

ユウヤ「うし、サイケモン馬鹿 進化だ！」↑サイケモンの話全然聞いてないサイケモン「人の話きいて！？」

ユウヤ「四の五の言わずに進化しろー！！」

と言うとユウヤはサイケモンの頬をつねる

サイケモン「にふおんふおふおふあいふあたまひかってりゅよ」

（日本語の使い方まちがッてるよ）

うゝんSとMか……。こーゆー時は……

シュウ「……。うし！寝てから考えよう！」

こッ言う時は寝るに限る！と思ひ、横になると……

ドルモン「シュウゝ寝ちゃダメゝ！」

ドルモンが僕の体の上に乗ッて暴れるのだ……

シュウ「うゝ分かつたよ！！ とりあえず、進化だ！」

一同「了解ッ！」

「ドルモン アーマー進化！！」

『鋼の勇氣 ラプタードラモン！！』

「ストラビモン 進化！！」

『ガルルモン！！』

「テリアモン 進化ゝ！！」

『ガルゴモン！！』

「レナモン 進化ゝ！！」

『キュウビモン！！』

ユウヤ「アーマー体1体と成熟期が3体・・・計4体かぁ」 行くぞ
サイケモン！」

サイケモン「サイケモン 超進化！！」

????「ワールモン！！」

ワールモン 完全体 データ種 獣型

必殺技：カイザーネイル ゲイルキック

ユウスケ「か、完全体！？」

レット「・・・ひとまずここはバラバラに動いて様子を見よう！」

キズナ「うん、ガルルモン！距離を取りながら攻撃！！」

ガルルモン「分かった 任せろ！」

と言うとガルルモンは姿勢を低くし、急所を狙いにくくしそのまま
距離を取り始める

レット「キュウビモンは分身を作って敵を翻弄しろ！」

キュウビモン「OKレット」 こぶんしん 弧分身！！」

キュウビモンは尻尾の炎から自分の分身をいくつも作り出す

ユウスケ「ガルゴモン・・・サポートに回って・・・」

シュウ「ラプタードラモンは目標を自分に絞らせるんだ！」

ラプタードラモンはコクリと頷くと、ワールモンの真正面に移
動する

ワールモン「カイザーネイル！！」

ワールモンは鋭い爪でラプタードラモンに襲い掛かる

ガルゴモン「そーはさせないよ？ ガトリングショット」

ガルゴモンはワールモンの視界をくらます。

キュウビモン「鬼火玉！！」

キュウビモンは分身を使い、沢山の鬼火玉を飛ばす。

ワールモン「くっ！」

ユウヤ「何やってんだ！早くケリをつけろ！！」

ガルルモン「フリーズファンゲ!!」

ワーガルルモン「ゲイルキック!!」

ガルルモン「グワッ!？」

ワーガルルモンのキックの勢いでガルルモンが吹っ飛ばされる。

シュウウウウ・・・

キズナ「進化が・・・解けた・・・」

ストラビモン「くっ・・・すまないキズナ・・・」

ユウスケ「気を付けて皆! 奴は完全体、相当強いよ!」

レット「言われなくても・・・」

キュウビモン「分かっているって! 弧炎竜!!」

ワーガルルモン「カイザーネイル!」

キュウビモン「うあああー!!」

キュウビモンはワーガルルモンの一撃でレナモンに退化してしまう

レナモン「レッ・・・ト・・・ごめん・・・」

レット「何だこの強さ・・・」

シュウ「何もかも・・・ケタ違いだ・・・!!」

第12話激突、ワーガルルモン！（後書き）

（キャラクター紹介）

ポコモン 幼年期 レッサー型 タイマー：レット

必殺技：殺生石

レットのパートナーで、本来はレナモン。好きな遊びは殺し屋ごっこ。

余計な事をするトラブルメーカー

次回もお楽しみに！

第13話実験型（プロトタイプ）！！（前書き）

13話まで来ましたね・・・今回、ちょっと凄い事が起きます・・・

第13話実験型（プロトタイプ）！！

ガルゴモン「かな〜りマズイ状況になって来たね・・・」

確かに・・・相手は一匹とは言えども完全体・・・

ラプタードラモン「けど、ここで負けるワケにはいけない！」

シュウ「いくよっ カードスラッシュ、スピードブースター！」

ユウスケ「カードスラッシュ、ユキダルモン『絶対零度パンチ』！」

ガルゴモン「絶対零度パンチ！」

ワーガルルモン「ゲイルキック！」

ガルゴモン「ウアアア！」

シュルルルル・・・

ガルゴモンは力尽きてテリアモンに退化してしまう

テリアモン「だ、ダメだ・・・ラプタードラモン・・・」

ラプタードラモン「え？」

テリアモン「あんな奴に敵いつこないよ・・・」

ユウスケ「そうだ・・・いったん退こう・・・」

皆が諦めかけた時だった

シュウ「まだだ・・・」

一同「「！？」」

シュウ「まだ、終わっちゃいない、まだ死んでなんかいない！」

キズナ「・・・そうね、まだ完全に負けて決まったワケじゃない・

・

ストラビモン「まだ・・・動ける！」

レット「決め付けるには早いな・・・」

レナモン「諦めたらそこで終わりだもんね」

ラプタードラモン「まだ、可能性はある！！」

ユウヤ「チッ！馬鹿馬鹿しいっ ワーガルルモン！」

ワーガルルモン「カイザーネイル！！」

ワーガルルモンが鋭い爪でラプタードラモンに襲い掛かる・・・が

ガキイイインッ！

ラプタードラモン「なんだあ？力が鈍ったんじゃないのかあ？」

ワールモン「！？（こいつ、この短時間で、パワーがこんなにあがってる！？）」

ユウヤ「どうした、ワールモン！？」

ラプタードラモン「ハアアアアアア！！」

ラプタードラモンはワールモンを力一杯投げ飛ばした
シュルルルルル・・・

シュウ「え！？」

キズナ「ラプタードラモンが」

ユウスケ「退化した！？」

ドルモン「ええーちよつと待ってくれよー！？」

シュルル・・・

ユウヤ「ワールモンが・・・成熟期に退化した！？」

？？？「くっ！」

グルルモン 成熟期 ウィルス（シャドウのため） 獣型

必殺技：カオスファイアー キラーバイト

シュウ「ウソだろお！？この肝心な時に限って退化なんて！！」

ドルモン「どおしよう」

ストラビモン「大丈夫だ、まだ可能性が残っている」

キズナ「どんな可能性よ！！」

ストラビモン「いいか？ドルモンは実験型^{プロトタイプ}デジモンだ、ドルモンの

インターフェイスの奥底には？抗体が眠っているつまり・・・

シュウ「それを解放すれば、新しい進化も可能ってことだね」

ストラビモン「そのとおりだ」

ユウヤ「いけっグルルモン！！」

グルルモン「グオオオッ！」

シュウ「・・・必ず解放するよ・・・？抗体を！」
ドルモン「影^{シヤドウ}の奴らをぶっ潰すために・・・！！」

～続く～

第13話実験型（プロトタイプ）！！（後書き）

次回予告！！

後書きコーナーが寂しいのでこれからは次回予告コーナーにします

ユウヤを倒すために？抗体の力を解放したドルモン・・・しかし、強くなるうという思いは悪い方向へ・・・

次回、死の？ - 進化発動！？

第14話デクスリューション!!（前書き）

誕生日に赤色のD・アーク（中古）を買ってもらったんですが・・・
カード持って居ない
持っていたとしても、デジカ対戦とジントリックスが何枚か・・・

第14話デクスリューション!!

グルルモン「・・・」

シユウ（? 抗体の解放か・・・でもどうやったら解放できるんだろ?）

僕達は今、もの凄くピンチである・・・なぜなら

ドルモン「・・・とりあえず・・・やるっきゃないか・・・」

ドルモンの進化が解けてしまったのである・・・この状況を乗り越える方法はただ一つ

キズナ「? - 進化・・・」

そう、? - 進化して戦う事である

ユウヤ「カードスラッシュ! ブイドラモン『ブイブレス・アロー』
! !」

グルルモン「ブイブレス・アロー!」

グルルモンが高熱の息を吐き出す

ユウスケ「カードスラッシュ! ウォーグレイモン『ブレイブ・シールド』!」

カキイイイン!

目の前に大きな盾が現れ、ブイブレス・アローをはじき返す
ユウヤ「チッおい、グルルモン超進化だ!」

グルルモン「グルルモン超進化!」

『ワーガルルモン』

ドルモン「メタルキャノン!」

（進化しなきゃ!）

ワーガルルモン「ふんっ」

カキイン!

するとワーガルルモンは片手でメタルキャノンを弾き返す
ストラビモン「片手でメタルキャノンを弾かれた!？」

レット「完全体だから・・・かなり強いぞ・・・」

ドルモン「メタルシュート!」

(進化しなきゃ・・・!!)

ドルモンは口から無数の衝撃派をくりだす

ワーガルルモン「カイザーネイル!!」

ワーガルルモンは鍵爪で、衝撃派を全て消す

ドルモン「!？」

ワーガルルモン「ゲイルキック!」

ドルモン「かはっ!？」

ドルモンは強く地面に叩きつけられてしまう

ドルモン「こんなじゃ・・・ダメ・・・だ」

(もっと、もっと強く強く強くーーーーー)

シュウ「・・・ドルモン？」

(ゾクツ)

ドルモン「もっと、強く進化しなきゃ・・・」

シュウ「!？」

ドルモン「いけないんだあああああ!!」

ドルモンの周りに強い突風が吹く

シュウ(・・・おかしい・・・何かが・・・おかしい!!)

シュウの直感は当たった

???「グルルル・・・」

キズナ「何あれ・・・スキャンっ」

キズナがとつさにデジヴァイスでデータを読み取る

デクスドルガモン 成熟期 ウイルス アンデット型

必殺技：パワーメタル メタルキャスト

キズナ「え？」

レット「あれ・・・」

ユウスケ「まさか・・・」

シュウ「・・・ドルモン・・・？」

デクスドルガモン「ギャシャアアアア!!」

レナモン「まるで別人のように豹変したな・・・」

テリアモン「・・・勝てるかもしれない・・・」

一同「「!?!」」

テリアモンの一言に一同は驚く

ユウスケ「どうゆう事!?!」

テリアモン「今のドルモンは暴走状態で一時的にパラメーターが上がっている・・・」

キズナ「つまり、今の状態だったら・・・ワールルモンを・・・」

テリアモン「そう、倒す可能性は十分にある」

デクスドルガモン「グオオオオオオ!!」

シュウ「ダメだ・・・」

一同「「!?!」」

シュウ「ドルモンは闘ってるんだ・・・」

ストラビモン「闘ってるって何も見えやしないぞ?」

シュウ「自分のデジコアとだよ・・・」

デジコア「人間で言う心臓

—————

ドルモン「あれ?ここは?」

????「よく来たなドルモン」

ドルモン「誰だオマエは!」

ドルモンはとつさに身構える

????「まあ、そう身構えるな・・・我は汝の味方だ・・・」

ドルモン「我? 汝?随分と古い口調だなあ・・・」

????「我は・・・DIGIMON-ORIONKNOWMONS
デジモン・オー
アンノウン
TERSだ」

ドルモン「ず、随分長い名前だねえ・・・」

????「呼びにくいのなら、D-アンノウンでも構わない」

ドルモン「分かった・・・早速だけど聞きたい事がいくつもあるんだ」

D・アンノウン「ここは何処か、何故自分がここに居るか、仲間は
何処に居るのか・・・だろ？」

ドルモン「!？」

ドルモンは驚いた何しろD・アンノウンは自分が思っていた事をそ
っくりそのまま言い当てたから・・・

～続く～

第14話デクスリューション!!（後書き）

次回予告

ドルモンの目の前に現れた謎の生命体D・アンノウン
アンノウンの目的は一体!?

次回 ドルモン退化不能!?

第15話ゼロ！（前書き）

サブタイトルがやけに短い・・・

夏休みに入ったと思います（学生さんの方は）課題は前半に終わらせた方が良くと僕的には思います

とりあえず本編スタート！

第15話ゼロ！

ドルモン「ええっ！？まだ口にも出していないのに！？」

D・アンノウン「まあ我は、オマエのパートナーの家族だからな・
・」

ドルモン「え？ちょっと待て、もうちょい分かりやすく言ってくん
ね？読者も俺も混乱するわ・」

D・アンノウン「つまり、こう言うことさ・・・！」

（パチンツ）

D・アンノウンが指パッチンをすると、空間が明るくなった

ドルモン「！？」

ドルモンは思わず言葉を失った。なにせドルモンの目の前に居たの
はシュウそっくりの少年だったからだ

D・アンノウン「やあ、俺は あまごわ天沢 はがね鋼 君のティマーつまりシュ
ウの父にあたる存在だ」

ハガネと言う少年はいままでと違った軽い口調で話す

ドルモン「オマエがシュウを捨てた奴・・」

ドルモンは全身の毛を逆立てて威嚇する

ハガネ「まあ、そう威嚇しないでくれよこっちにだって色々事情が
あるんだから・・なあ？シャウトモン？」

すると、ハガネの影から、赤いトカゲの様なデジモンが現れる

シャウトモン 成長期 ヴァリアブル種 小竜型

必殺技：ソウルクラッシュャー ラウディーロッカー ロックダマシー

シャウトモン「おめーがシュウって奴のパートナーか・・何か頼
りなさそうだなあ・」

そう言ってシャウトモンはため息をつく

ドルモン「ハガネ、コイツ物凄くムカつくんだけど？」

ハガネ「ワリイ×2 後で注意しとくよ」

シャウトモン「そんなことより・ハガネ、あの件はどうするんだ？」

シャウトモンがハガネに耳打ちする

ハガネ「いけねっ 危うく忘れるとこだった」

シャウトモン「ホント、頼むぜ」これで今月物忘れするの何回目だよ脳老化が進んでるんじゃないの？」

ハガネ「うるせえな・・・」

ドルモン「ねえハガネ？」

ハガネ「ん？何だ？」

ドルモン「ハガネの身長ってシュウの身長とあんまり変わんないんじゃない??」

ドルモンが不思議そうに聞く

ハガネ「・・・実はな、俺はシュウ達の前の選ばれしティマーなんだ」シャウトモン「そう、でシュウを捨てたってのはあの時運のワリイ事にDWの神、『イグドラシル』って奴から指令が入ってさ、DWは危険だからシュウを置いていつちまったと言うワケさ」

ドルモン「じゃあ、その指令ってのをクリアしたら・・・RWに戻るワケだった」

ハガネ「そう、・・・だが指令の場所が悪くてな『最初の地』って言う場所なんだけどそこに行くとなにもかも、最初にDWに来た形になっちまうんだよ・・・」

ドルモン「と言うことは・・・シュウと身長が余り変わらないのも・・・」

ハガネ「最初の地に足を踏み入れて最初にDWに来た時ー小学4年の姿になっちまったからだ」

すると、ドルモンは大変な事を思い出す

ドルモン「そうだ！ シュウ達は!？」

ハガネ「デクスリューションしたオマエと一緒に居る」

ドルモン「でくすりゅーしょん?？」

ドルモンは首を傾げる

ハガネ「死の？ - 進化の事だ・・オマエは？ - 進化をしようとして、間違った進化をしてしまったんだ」

ドルモン「元に戻す事は出来ないの？」

ハガネ「・・・元に戻す方法は今のオマエつまりデクスドルガモンと戦ってオマエが勝つ事だ」

ドルモン「でも、デクスドルガモンは今はシュウ達と一緒に・・」

ハガネ「ゲート解放!!」

ハガネがそう叫ぶと、空間に穴が開きデクスドルガモンが現れる
シャウトモン「俺達はここで見守るのみだ、手助けはしねえぞ・・」

デクスドルガモン「グルルルウウ・・・」

ドルモン（何、この臭い・・・何かが腐ったような腐敗した様な・・・）

デクスドルガモン「グガアアアアアアアアア!!」

デクスドルガモンがドルモン目掛けて突進してくる

ドルモン「・・・待っててよシュウ・・・」

（続く）

第15話ゼロ！（後書き）

次回予告

ドルモンVSデクスドルガモン

激しい戦いの中、デジコア・インターフェイスのが・・・！

次回ゼヴォリユーション！！

第16話ゼヴォリユーション!!（前書き）

ハガネの紹介をします

名前：天沢 鋼 あまさわ はがね

年齢：見た目9歳 中身21歳

特技：運動全般

苦手：ピーマン

パートナー：シャウトモン

シャウトモン 成長期 バリアブル 小竜型

必殺技：ソウルクラッシュャー ラウディーロッカー ロックダマシー

テイマー：ハガネ

特技：カラオケ

苦手：細かい仕事

とまあ16話スタート！

第16話ゼヴォリューション！！

デクスドルガモン「パワーメタル！」

ドルモン「とうッ」

ハガネ「成熟期の大技を軽々と回避する・・・か」

シャウトモン「この勝負・・・全く先が見えねーぞ・・・」

デクスドルガモン「ゴガアアアアアアッ！」

デクスドルガモンが低空飛行で突進してくる

ドルモン「・・・上等」（ニヤリ）

デクスドルガモン「グガアアアアア」

ドルモン「ぐぬぬぬ・・・」

デクスドルガモンとドルモンがほぼ同時に頭突きをする

ドルモン（何て力だ・・・これでは持久戦は不利だな）

デクスドルガモン「ゴオオオオオオオオオ！」

デクスドルガモンがいきなりドルモンを突き飛ばす

ドルモン「うあああああ！」

ドルモンは壁に叩きつけられてしまう

シャウトモン「オイオイ、ヤバいんじゃないの!？」

ドルモン「・・・まだだ・・・」

エヴォリューション

EVOLUTION

ドルモン「ドルモンアーマー進化！」

『鋼の勇気ラプタードラモン!』

ハガネ「アーマー進化!？」

ラプタードラモン「チャッチャと片付けるぞ・・・」

デクスドルガモン「グオ!？」

ラプタードラモン「クラッシュ・チャージ!！」

ラプタードラモンはデクスドルガモンへと一直線に突っ込んで行く

デクスドルガモン「ギシャーーーーッ！」

パリパリ・・・

シャウトモン「デクスドルガモンのデータが剥がれて来てる!？」
ラプタードラモン「昔読んだ本に書いてあったんだ デクスリユー
ションしたデジモンのデータは物凄く脆いつて!」

デクスドルガモン「ギャシャー——————」
「」

デクスドルガモンはデータが不足し、消滅し始める
デクスドルガモン「ハアハア・・・」

ハガネ「・・・この少ない時間でこいつ（デクスドルガモン）を消
滅させるとはな・・・」

デクスドルガモン「ユルサン、ユルサンゾ・・・カナラズオマエ
ヲ闇ニヒキズリコンデヤル・・・」

パライイイン!

ガラスが割れるような音がしてデクスドルガモンは消滅する

ハガネ「いやー正直驚いたよー あんな短時間でデクスドルガモン
を倒すとは」

シャウトモン「こりや、シュウって奴も心配いらねーな」

ドルモン「で、どうやって元の世界に戻るの?」

ハガネ「そのドアを開ければ良いだけだ」

ハガネが指差した先には一つのドアが・・・

ドルモン（? あんな所にドアなんてあつたっけ? ま、いいや）
ガチャッ

ドルモンはドアを開け元居た世界に戻って行く
ハガネ「・・・シュウをよろしく頼むぞ・・・」

—————

シュウ「ドルモン! ねえドルモン!」

ストラビモン「無駄だシュウ!」

キズナ「そうよ、こんな姿になっちゃったんだもの理性なんてもう

残っていないわよ!!」

デクスドルガモン「ユウ シュウ?」

レット「え!」

レナモン「ドルモンが」

ユウスケ「元に」

シュウ「戻った・・・?」

するとドルモンから聖なる光が溢れだし、全く違う姿になった

ドルガモン 成熟期 データ 獣竜型

必殺技：パワーメタル トリプルメタル

ドルガモン「我が名はドルガモン・・・ドルシリーズの真の姿だ!」

シュウ「ドル・ガモン!」

ドルガモン「シュウ、オマエの父に会って来た」

シュウ「父さんに!」

ドルガモン「ああ・・・どうやらこの戦いオマエの親と何か深い関わりがあるようだ・・・」

テリアモン「・・・よく分かんないけど喋ってる場合じゃない見たいだよ・・・」

シュウ「行くよ! みんな!!」

一同「応!!」

〈続く〉

第16話ゼヴォリューション!!（後書き）

次回予告

ドルガモンへの進化に成功!!

果たしてシュウ達はユウヤとワーガルルモンに勝てるのか!?

次回

突風進化!？ お楽しみに！

第17話突風進化！？ドルグレモン（前書き）

さあ、17話です！

シヤドウテイマーとの戦いも後半に差し掛かってきました

シュウ達は果たしてかてるのか？？

第17話突風進化！？ドルゲレモン

ユウヤ「ドルガモンだか何だか知らないけど、ぶっ壊せ！ワーガルモン！！」

ワーガルモン「う、うんっ！ カイザーネイル！！」

ドルガモン「そのような技が我に通じるとでも思っているのか・・・？」（ニヤリ）

ワーガルモン「えっ！？」

なんと、ドルガモンはワーガルモンのカイザーネイルを素手で付かんでいたのだ。

シュウ「そんな攻撃、ドルガモンには効かないよ」

ストラビモン「どうやら、あのドルガモンと言う奴・・・普通の成熟期より一味も二味も違うようだな」

キズナ「凄い・・・あれが？抗体の力なの・・・！？」

ユウヤ「完全体が成熟期ごときに負けてどうするんだ！！」

ワーガルモン「分かってる・・・分かってるよでも・・・」

ドルガモン「終わりだッ」

ドルガモンがトドメを刺そうとした時。

「？？」「タクスドライバーアア！！」

ズドオオオオオオオン！！

一同「！！？」

ワーガルモン「ツセトモン！？ 何でこんな所に・・・」

キズナ「セトモン？？」

セトモン ウィルス（シャドウのため） 魔獣型 アーマー体

必殺技：タクスドライバー シャドウフレイア

ユウヤ「何の用だよ 柏木 美和子^{かしわぎ みわこ}」

シュウ「えーと・・・知り合いか何かですか・・・？」

ドルガモン「……知り合いじゃなかったら、名前は知らないと思うが……?」

空気を読まずに飛び込んで来たセトモンとその背中に乗った少女に一同は啞然するばかりだった

セトモン「おいクソ作者『空気を読まずに』ってのは余計だぞせめて『カッコ良く』に変えろ」

……無茶な事を言わないで下さい……

ミワコ「……」

セトモン「どうした、ミワコ??」

すると、ミワコと呼ばれた少女はセトモンの背中から降りるとドルガモンの方へと向かった

セトモン「あ!? オイ、ミワコッ危ないぞ!??」

ミワコ「……」

ドルガモン「なあ、シュウ……何だかこのミワコって奴に睨まれてる気がするんだが……」

シュウ「……えっと君、ミワコちゃんだけ?? 君も影シヤドウなの?」

ミワコ「……」(コクリ)

セトモン(あゝあ 答えなくて良かったのに……)

とセトモンは心の中で思い、溜息をつく

ユウスケ「溜息つくと幸せが逃げていくぞ」

テリアモン「無問題もーまんだいだよ」

レット「……この状況……ほっときたい!」

シュウ「オマエ何、クロスウオーズの主人公のキメ台詞パクってんの!? 読者から苦情が来るよ!??」

レット「だってほっときたいんだもん」

レナモン「……」(どうしよう……)

ストラビモン「とりあえず、敵が一体増えた分厄介だ俺達も加戦しよう」

テリアモン&ポコモン「うん!」

ユウスケ「加戦するのは構わないけど……体大丈夫かよ……?」

テリアモン「何だかんだ言って心配してくれてんの??」

テリアモンはニヤニヤしながら、ユウスケを見上げる

ユウスケ「べつ別に・・・大体オマエが倒れてシュウに怒られるの俺だから、そう言うのマジ勘弁と思って・・・」

ストラビモン「ゴチャゴチャ言ってないでいくぞ!」

「ストラビモン 進化!」

「テリアモン 進化!」

「レナモン 進化!」

『ガルルモン!!!』

『ガルゴモン!!!』

『キュウビモン!!!』

キズナ「カードスラッシュ! パワーチャージャー!」

ガルルモン「フォックスファイヤー!」

セトモン「つく!!」

セトモンはガルルモンの攻撃をもろに喰らう

ユウスケ「カードスラッシュ! ライラモン『アン・ドウ・ポラン』」

ガルゴモン「アン・ドウ・ポラン!」

ワーカーガルルモン「か・・・体が!」

レット「カードスラッシュ! ホルスモン『テンペストウイング』!」

キュウビモン「テンペストウイング!」

キュウビモンは体に竜巻をまといセトモンに体当たりする

セトモン「グアアア!」

ドルガモン「シュウ、アレを見て・・・!」

シュウ「皆が・・・加戦してくれてる・・・」

ドルガモン「我らも、戦おう!」

シュウ「うん!」

すると、ドルガモンの額に付いているインターフェイスが輝きだす
シュウ「!？」

ドルガモン「ドルガモン 超進化！」
????「ドルグレモン!!」

ドルグレモン 完全体 データ種 獣型
必殺技：メタルメテオ ブラッティータワー

シュウ「完全体・・・」
ユウヤ「!？」

（続く）

第17話突風進化！？ドルグレモン（後書き）

次回予告

ついに完全体に進化したドルモン

最後の敵の異名を持つ竜が暴れて、暴れて、暴れまくる！？

次回紅い竜！ お楽しみに！

番外編始まりの日（前書き）

折角8月1日が来たんだし、シユウ達がDWに来る時の話でも書こうかなと

まったり書いていたらかなり遅くなってしまいました・・・

番外編 始まりの日

〔緑町中央公園〕

シュウ「遅いな。約束の時間はとくに過ぎているのに。」

紺色の髪にゴーグルをかけた少年が呟く

キズナ「あ、シュウ。ゴメン。」

桃色の髪にやっぱりゴーグルをかけた少女が走ってくる

今日は夏休み初日、少年・シュウは幼馴染のキズナとその友達合計4人で近所の立ち入り禁止区域に入って見ようと言うのだ

ユウスケ「まったく、いままで何やってたんだよ。」

シュウ達の中でも一番小柄な少年は無愛想な態度を取る

キズナ「ゴメン、ユウスケ。」

すると、シュウはメンバーが一人足りない事に気が付く

シュウ「伊月君は？」

キズナ「レツトなら、先に行ってるって。」

ユウスケ「なら、俺らも早く行った方が良いんじゃないの？」

シュウ「そうだね。えーと狭間君だっけ？」

ユウスケ「・ユウスケ」（ボソリ）

すると、ユウスケは小さく呟く

シュウ「え？」

ユウスケ「呼び方、ユウスケで良い。」

シュウ「じゃあ僕はシュウで良いよ。」

キズナ「さあ、張り切って行こー！」

シュウ＆ユウスケ「遅刻したオマエが言っなー!!。」

〔立ち入り禁止区域〕

レツト「遅いぞ!! 待ちくたびれた!。」

シュウ達より先に禁止区域に付いていた少年、恐らくメンバーの中では一番背が高い

青色の髪に黒いＴシャツ　何処かボロボロのガーゴパンツを穿いている。

キズナ「じゃあ全員そろった事だし入ろっか」

シュウ達は『これより先、立ち入り禁止』と書かれたテープを潜りぬけて禁止区域に入る。

ユウスケ「まったく何だよこれ・・・バ〇オハ〇ードじゃあるまいし・・・」

シュウ「なんで小１がバ〇ハ〇ード知ってんだよ・・・」（ボソリ）

シュウは密かにツツコム

レット「おい、皆こっちにパソコンがあるぞ!？」

一同「何でパソコン!？」

シュウ達がレットの居る方に向かうと確かにパソコンがあつた
キズナ「これ、動かな〜？」

すると、キズナが何の警戒もなしにパソコンの電源を押す

ヴウウン

一同「う、動いたあ!？」

シュウ「きつとアレだよほら、よくあるじゃんいきなり電源がついてさー長い女の人が移っててさ、『殺してやる』っての・・・」

レット「何で怪奇現象になつてんだよ・・・」

シュウ「いや〜夏だからつい・・・」

ユウスケ「ねえ、これ何だろう?」

一同「え?」

一同がパソコンの画面に目を向けると一通のメールが表示されていた

『貴方達はデジタルワールドに選ばれました、こちらの世界にパー

トナーが居るはずです　ゲートを開きますか?　YES　NO』

シュウ「デジタルワールドってデジモンカードゲームだね・・・」

?

キズナ「でも、何か面白そうじゃない?　YES!」

そう言うときズナは不思議な空間に飲み込まれていった

シュウ「あーもうっ!　YES!」

続いてシュウも

レット「YESだ」

レットも

ユウスケ「え？ま、待ってYES！」

ユウスケも飲み込まれていった

???「――きてー起きてってばあ」

何かが、シュウを揺さぶる

シュウ「う、うゝん」

???「やっと起きたよ 僕、ドルモンよろしく」

シュウの目の前に立っていたのは紫の毛を生やしたデジモン、ドルモンであった

シュウ「え、えええええゝ!？」

番外編始まりの日（後書き）

と言う流れでDWに来たのです わかったかな？
・・・分かりませんよねゝ

何はともあれ、18話をお楽しみにゝ

第18話デジモン・ライト・プラン（前書き）

もう少いで20話だー！

と盛り上がっています、椿です

シユウ達も成長するもんですねー・・そりゃそうか人間なんだから

第18話デジモン・ライト・プラン

ユウヤ「か、完全体だと!？」

キズナ「デカツ!？」

ワーガルルモン「か、体が痺れて動けない」

ドルグレモン「おい、小僧・・・」

ドルグレモンはユウヤを睨みつける

ユウヤ「こ、小僧だと」

ドルグレモン「俺を怒らせたのが運の尽きだったな・・・」

セトモン「フンッ馬鹿馬鹿しい・・・」

シュウ「何が馬鹿馬鹿しいの？」

シュウの言葉を合図にドルグレモンが一瞬にしてセトモンを捕らえる

セトモン「かはっ!？」

ミワコ「!？」（早い・・・）

ユウヤ「行け!　ワーガルルモ・・・」

シュバツ

何かが横切ったかと思うとそれはドルグレモンだった

ドルグレモンは捕らえたセトモンとワーガルルモンを大空に放り投げる

ドルグレモン「ブラッティータワー・・・」

大空に放り出されていたハズのセトモンとワーガルルモンが串刺しになる

シュウウウ・・・

サイケモン「・・・。」

Bブイモン「・・・。」

Bブイモン　成長期　ウィルス種　小竜型
必殺技：ブラックパンチ　ブイモンヘッド

ユウヤ「な・・・負けた・・・」

ミワコ「・・・。」（Bブイモンが・・・）

シュルル・・・

サイケモンとBブイモンに続いてドルグレモンもドルモンへと退化する

ドルモン「ま、顔を洗って出直してくるんだな」

シュウ「もし、君達のボスが君達を利用してるのだったらそのシャドウとか言う組織から抜ける事をおススメするよ」

ミワコ「・・・してない・・・」（ボソリ）

ドルモン「ああ？」

ミワコ「M＝ミレニアモンは私達の事を利用なんかしていない!!」

ユウスケ「ああ、もうワケ分かんなくなってきた・・・」

ミワコ「M＝ミレニアモンは私にパートナーを作ってくれたし、データコアを見つけたら私のお父さんとお母さんを生き返らせてくれるって約束してくれた!!」

ユウヤ（あーあ・・・あんのバカ・・・）

レット「パートナーを作ってくれたと言うのは・・・どう言う事だ？」

Bブイモン「・・・俺達、シャドウに所属しているデジモンのほとんどはM＝ミレニアモンって言うデジモンのデータを削って作られた、M＝ミレニアモンの分身の様な物さ・・・」

Bブイモンは説明する

レナモン「じゃあそのM＝ミレニアモンってのを倒したらどうなるんだ？」

Bブイモン「消滅する・・・良くてデジタマに戻って記憶、今までの進化記録、等は消滅して全部ゼロからやり直して事になるね・・・」

ストラビモン「で、そのデータコアってのは何だ？」

サイケモン「それは僕が説明するよ・・・」

テリアモン「サイケモン!? 復活早っ!?!」

サイケモン「データコアって言うのはDWの何処かに有るDWの心臓（みたいな物）・・・」

サイケモンは分かりやすく説明する

ユウスケ「つまりその、データコアを壊したりしたら・・・」

レット「DWは死ぬ」何も無くなるって事か??　つかそもそも何でM「ミレニアモンはデータコアを欲しがっているんだ?」

ユウヤ「自分が最強になるためだよ・・・」

ユウヤが口を開く

ドルモン「けど、M「ミレニアモンって究極体だろ??それ以上強くなつてどうする気だよ・・・?」

シュウ「あのさ・・・」

一同「「?」」

シュウ「あくまでもこれは僕の勝手な推測なんだけど・・・M「ミレニアモンはDWとRW両方を我が物にしようとしているんじゃない??」

ユウヤ「さぁ・・・アイツの考えてる事はよく分かん」

全員「「・・・・・・・・・・。」」

長い沈黙になる

シュウ「よしユウヤ、ミワコ、僕達に協力してくれないか?」

ユウヤ「はあ!??」

ミワコ「??」

ユウヤ「ちよつと待て、何で俺が敵のおめーに協力になきゃなんねえの!??」

シュウ「君達も自分のパートナーがM「ミレニアモンのために消えちゃうのは嫌だろ?」

ミワコ「ごによごによ・・・」

Bブイモン「だからと言ってどうすんだ　だとさ」

シュウ「僕らで二人のデジモンをなんとか出来ないか調べるんだ」サイケモン「調べてどうにも出来なかったら?」

キズナ「多分シュウだと、たとえ自分の体が言う事を聞かなくなる

うが、なんとかなるまで調べるって言いそう・・・」

シュウ「その通りさ、流石幼馴染！」

ユウヤ「俺は・・・」

ミワコ「協力する・・・」

ユウヤ「ええー!？」

Bブイモン（ミワコが初めて自分からやると言った所を見た・・・このシュウって奴、只者じゃないな）

Bブイモン「俺も同感だ」

サイケモン「ユウヤ・・・僕は嫌だよ・・・ユウヤにもう会えなくなっちゃうの・・・」

ユウヤ「・・・わーたよ、協力すれば良いんだろ？」

レット「全員OKのようだな・・・」

シュウ「じゃあ、デジモン・ライト・プランDRP実行だ！」

一同「「応!!!」」

第18話デジモン・ライト・プラン（後書き）

デジヴァイスについて

この世界ではデジヴァイスは『D・グレス』と言う公式名があります
ですが、シユウ達はまだ公式名を知りません
知っているのは、ハガネ達ぐらいです

次回予告

ユウヤとミワコを仲間に入れ、サイケモン、Bブイモンを元の普通のデジモンに戻そうとあれこれ策を練る・・・だがどれも上手くいかない、そんな時シユウの父ハガネからメールが！！
次回 策とメール

第19話メールを送る者（前書き）

うおっしやーここまで来たー

やっと更新できたー つーわけで短いですけど読んでやってくだ
さい

第19話メールを送る者

「デジホーム」

シュウ「うん．．．どうしようかねえ」

キズナ「前回で思いっきり良い顔して デジモザラン DRP 実行だー とか言
っちゃったけどね．．．」

ユウスケ「何にも考えてなかった．．．」

ミワコ「ノープランって事？」

レット「そう、まさにその通り」

レットが答えるとミワコは大きく溜息をつく

ユウヤ「よく、DWで生きて来れたよなあ．．．」

サイケモン「そこは感心する所じゃない気がするよ．．．」

感心しているユウヤにサイケモンが軽くツツコム

テリアモン「じゃあ、アレだねいつもみたいに」

レナモン「古い本をあさるしか方法はないって事!？」

Bブイモン「つかそんな物あるんだ．．．」

ドルモン「シュウが努力家なんだよ」

ストラビモン「まあ、その努力家な性格が裏目に出た時もあったが
な」

ドルモンとストラビモン達がコソコソと話していると何やら痛い視
線を感じる

シュウ「〜ッ!」

ストラビモン「おっとこれ以上言つと怒られるな」

Bブイモン「．．．??」

ユウスケ「オマエら時代はデジタルだぞアナログ放送なんかもう
とっくに終つて．．．」

ピルルルルル．．．

ドルモン「シュウ、デジヴァイス鳴ってるよ」

シュウ「おかしいな．．．メールだったらここに居るメンバーしか

打てないハズ・・・」

不審に思いながらもデジヴァイスをポケットから出すシュウ
シュウ「・・・え!？」

キズナ「どうしたのシュウ？」

ユウスケ「どーせまた、変なイタズラメールじゃねえの？」

シュウ「これ・・・見てよ・・・」

シュウが差し出したデジヴァイスの画面にはこんな文章が映っていた

久しぶりだな 俺の名前は 天沢 鋼

つまりはオマエの父親だドルモンは一回会ったかもしれないがそんな話はどうでも良い

オマエに話したい事がある テイマータウンに会い

ユウヤ「えーと・・・オマエの親父からのメールだなあ・・・」

ミワコ「どうするつもり? コレ」

シュウ「どうするも何も直接行つて確かめる! 本当に父さんなのか・・・!」

「テイマータウン」

「???」おっせーなあ」

紺色の髪の少年・・・ではなく中身は青年なのだがワケあつて今は少年の姿の青年が溜息を突く

彼の名は 天沢 鋼 シュウの父親だ

「???」「つーか本当に来るのか? お前の息子は」

黒い髪が揺れる 狭間 紅汰 ユウスケの父親だ

ハガネ「疑つてんのかおめー!」

コウタ「約束は破る物だ と小さい頃、学校の教師に言つたお前を誰が信じるかッ」

「???「まあまあ、落ち着いて二人とも」

横から赤が掛かった茶髪の少女が顔を出す 天沢^{あまさわ} 未来^{みく} シュウの
母親にあたる存在だ

コウタ「けどさ、今現在少年少女の姿をした俺らの事をアイツらが
信じてくれるのか?」

ハガネ「大丈夫さ! まあシャウトモン?」

ハガネは横に居る小竜型デジモン シャウトモンに話かける

シャウトモン「ま、何とかなるさッ」

「???「シャウトモンの言う通りだよ」

コウタの頭の上からパタモンの亜種デジモン ツカイモンが言う

「???「だが、しかしな・・・」

ミクの腕に巻きついていいるデジモン クダモンが唸るように口を挟む
クダモン「それ以前の問題かもしれんぞ・・・」

クダモンは雲一つ無いDWの空を見上げた

「続く」

第19話メールを送る者（後書き）

次回予告

突然の再開に戸惑うシュウ、ユウスケ・・・なぜ、少年少女の姿なのか

なぜ、突然現れたのか

その答えは全て2匹のデジモンが握っていた！！

次回 対になるもの お楽しみに！

第20話新たな愛情ビットモン！？（前書き）

記念すべき20話目です！！

ここでちよつとミワコとユウヤの事を紹介

名前：菊田きくた 裕也ゆうや

年齢：小4 10歳

パートナー：サイケモン

得意：逆上がり

苦手：料理

名前：柏木かしわぎ 美和子みわこ

年齢：小1 7歳

パートナー：Bブイモン

得意：ピアノ

苦手：ホラー映画

名前：サイケモン 成長期 データ種 爬虫類型

必殺技：カラフルスパーク ハデハデホーン

テイマー：ユウヤ

得意：料理、傷の手当

苦手：くすぐり

名前：Bブイモン 成長期 ウィルス種 小竜型

必殺技：ブラックパンチ ブイモンヘッド

テイマー：ミワコ

得意：喧嘩

苦手：機械いぢり

第20話新たな愛情ビットモン！？

ユウスケ「・・・絶対、罠だよコレ」

ドルモン「んで決め付けるワケ！？」

ユウスケ「だって、親だって言ってもシユウを捨てたんだよ！？」

シユウ「ドルモンは捨てたワケではないって言ってたよ？」

ストラビモン「まあ、行ってみる価値はあるな・・・」

キズナ「・・・けど、歩くのめんどい・・・」

レット「面倒臭がるな」

シユウ達があれば、これや　と言いつけているとテリアモンが走って来た

テリアモン「みんな！すっごい近道みつけたよ」

サイケモン「近道ってティマータウンまでの？」

テリアモン「うん、5分ぐらいで付くよ」

Bブイモン「敵の出現確立は？」

テリアモン「0に近いよ」

ユウヤ「それってさ・・・まさかとは思うけど下水道じゃないよね・・・？」

テリアモン「大丈夫ッ！下水道でも御茶ノ水でもないからッ」

グツジョブ！！と親指を立てるテリアモンに・・・

ユウスケ&シユウ（な・・・何で御茶ノ水・・・？）

とユウスケとシユウは心の中でツツコムのであった

ミワコ「じゃあ早速その近道とやらを通って早いトコティマータウンにいきましょう・・・」

一同「賛成ー！！」

（謎の近道）

ティマータウンへ向かうシユウ達・・・テリアモンの話によると5分ぐらいで到着する予定なのだが・・・

すでに10分程経過している・・・その理由は・・・

ゴブリモン「ゴガアアアアア!!」

オタマモン「リヤアアアアア!!」

ゴブリモン 成長期 ウイルス種 鬼人型

必殺技：ゴブリストライク

オタマモン 成長期 ウイルス種 爬虫類型

必殺技：ララバイバブル

キズナ「・・・何コレ・・・」

ユウヤ「多分、ティマーに捨てられたデジモン達がここで野生化したんだろ・・・」

シユウ「思いつきり敵の巣穴に飛び込んでるじゃん!!」

Bブイモン「それじゃあ一発どかん・・・と暴れるとしますかあ」

レナモン「どかん・・・どころじゃあ多分すまないけどね」

EVOLUTION

「ドルモン アーマー進化」

「ストラビモン 進化」

「レナモン 進化」

「サイケモン 進化」

「Bブイモン 進化」

『鋼の勇気 ラプタードラモン』

『ガルルモン』

『キュウビモン』

『グルルモン』

『セトモン』

ユウスケ「・・・テリアモン？ 進化しないのか？」

テリアモン「しない・・・じゃなくって出来ないんだよ・・・」

ユウスケ「ええ！？」

セトモン「どうしたユウスケ、テリアモン」

ユウスケにセトモンが聞く

ユウスケ「・・・テリアモンが・・・進化・・・出来ないって」

キュウビモン「何だって！？」

テリアモン「・・・ゴメン・・・いつもみたいなあの『ゴオオオ』って

言う力が沸いてこなくって・・・」

ミワコ「なら、カードでの援護をお願い」

ユウスケ「分かった、後ろは任せといて！」

ユウスケはデッキケースからカードを4、5枚取り出す

オタマモン「俺達モ、進化ダ！！」

レット「ええ！？」

「オタマモン リペア進化！！」

「ゴブリモン リペア進化！！」

キズナ「そっか・・・タイマーのデジモンだったから通常進化とは行かなくても・・・データを消費して使う仮の進化・・・つまりリペア進化なら出来るって事ね・・・！？」

『ガワツパモン』

『ヤシャモン』

ガワツパモン 成熟期 データ種 爬虫類型

必殺技：DJシユーター

ヤシャモン 成熟期 ワクチン種 魔人型

必殺技：一刀両断　クグツの術

ユウスケ「援護するよテリアモ・・・ってあれ!？」

気が付くとユウスケのすぐ隣に居たハズのテリアモンが居なかった
テリアモン「プチツイスター!！」

一同「!?!？」

声がする方を向くとテリアモンがガワツパモンとヤシャモンに立ち
向かっていつてる

テリアモン「皆戦ってるのに・・・僕だけ戦えないなんて嫌だ
キイイイイン

ラプタードラモン「ユウスケの・・・」

ガルルモン「デジヴァイスが・・・」

ユウスケ「光ってる・・・」

画面にはハートをモチーフにした見覚えのあるマークが表示されて
いた

ユウスケ「テリアモン!！」

テリアモン「O・K!！」

「テリアモン　アーマー進化」

『進む愛情　ビットモン』

ビットモン　アーマー体　哺乳類型

必殺技：イヤーランサー　キャロット爆弾

ユウスケ&ビットモン「これが俺（僕）達のアーマー進化だ!！」

く続くく

第20話新たな愛情ビットモン！？（後書き）

次回予告

相手は成熟期が2体・・・と油断していたシュウ達・・・
そんなピンチに駆けつけた人物は何と・・・！？

次回 再会！？信頼の心

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1537s/>

デジモンプレイヤーズ

2011年11月21日11時36分発行